

外国語教育の実践

守谷市立けやき台中学校

1 はじめに

本校では、研究テーマ「主体的に学習に取り組む態度を育てる指導と評価の在り方ー『楽しい』と感じる授業の追究を通してー」のもと、英語部会として「楽しい授業」を次のようにとらえ、研修を進めてきた。

生徒が、何が分かって、何ができたかを実感できる。特に、何を表現できたかが明確に分かり、意見や考え、思いが相手に伝わった達成感を得られる。

学習において求められている「楽しさ」とは、「楽しい活動」ではなく「活動の楽しさ」であると考え。外国語の習得には、ゲーム的な活動の面白さも大変有用ではあるが、学習活動の楽しさとは、自らの気づきを通して解決していく「愉しさ」ではないかと考える。例えば、「表現できた、伝わった」というコミュニケーションの成功体験、それが学んだことによって支えられていることを実感する、その積み重ねが英語学習の効力感につながるといったサイクルが生まれることが必要である。そのような変容が活動を通して起こった時に初めて、「愉しさ」を実感するのではないかと考える。外国語（英語）科の授業では、自分の意見や考え、思いをもち、「表現できた、伝えられた」と実感できるよう、各時の学習や各活動に技能と過程の統合性や関連性をもたせ、毎時及び単元の出口に行うメインのコミュニケーション活動を成功させるべく、基礎的な活動が組み上げられていくようにした。また、取り組む課題を選択させたり、伝え合う情報の質を大切にしたコミュニケーション活動を行ったりして、学習やコミュニケーションに対する積極性を高める工夫をした。

2 具体的な実践内容

(1) 第1学年の取組

小学校外国語活動で身近な英語表現に慣れ親しみ、英語学習が楽しいと感じ、意欲的な生徒が多い。その一方で苦手意識をもち始め、自分の意見や考え、思いを自由に話したり書いたりして伝えたいが、既習表現が活用できない、知識が十分に定着していない生徒が徐々に見られるようになった。ワークシートを活用したり、モデル文を効果的に提示したりすることで、各活動場面で「何をするのか」を明確にした。また、指導形態・学習形態を工夫し、意見交換や発表、よいモデルのシェアが活発に行われるよう工夫した。Writing Plus 2の単元では、4人グループでのカード作りを通して、自分の意見や考え、思いが伝わるように英文を書く力を高め合うことができた。

(2) 第2学年の取組

守谷コミュニケーションチャレンジを活用したインプット訓練や会話練習、話したことを5分間で書く活動を通して、表現力の向上を図った。Unit 5 A New Language Serviceでは、単元を貫いて、身近な事柄について意見を伝え合う対話練習の活動を位置付け、単元末には初めてのミニインタラクティブフォーラムに挑戦させた。

(3) 第3学年の取組

中学校学習指導要領における指導事項にある、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどする」と、守谷市 CAN-DO リストにある、中学校外国語（英語）の後期目標「自分の思いや考えを伝えること」、具体的には Introduction・Body・Conclusionの構成で、内容に盛り込むべき事項やその順序を整理して表現する力を付けること」を目指し、「辞書を売り込もう」、「意見文を書けるようになろう」など、自分の意見や考えを書く活動に継続して取り組んだ。聞く・読むことを通してモデルを効果的に input し、書く・話すことについては教師による個別の支援や、生徒同士でモデルを共有し助言し合える活動形態を工夫した。Unit 6 Break the Barrierでは、生徒の意欲を喚起する二つの話題から一方を選択し、個人→ペア→グループと段階を踏んで英文をまとめ上げていく「3 Stage Writing」を行った。これならできそうだ、やってみようという意欲をもたせ、全てのグループが3段落構成の意見文を書き上げることができた。

3 成果と課題

各学年で守谷コミュニケーションチャレンジを活用し、ペアや少人数グループで意欲的に発話する場を仕組むことができた。話題に沿って効果的に質問したり、切り返したり、自分の思いや経験などを自己表現することが困難な生徒がまだ多い。守谷市英語教育指導計画に則った指導を継続し、英語学習に対する意欲とコミュニケーションを図ろうとする積極性、双方向コミュニケーションができる力を高めていきたい。